「障害や障害のある人への理解」に関する調査結果の概要

資料５

（1）調査の概要

1．調査趣旨　第4次船橋市障害者施策に関する計画策定委員会（以下「策定委員会」という）において、各団体等の意見を把握した上で「障害や障害のある人への理解」についての議論を行うために調査を実施した。

2．調査期間　令和2年2月28日～4月20日

3．調査対象　策定委員会委員27名（うち25名回答）

障害福祉団体58団体（うち43団体回答）

※委員が福祉団体から推薦されている場合、回答は委員か団体のいずれかにカウントしている。

（2）調査結果の概要

問1　ご家族・支援者以外の人にどんなことを望みますか？

　3障害で比較すると、身体におけるハード面の回答割合が17％と多くなっているが、その多くが歩道・道路やトイレの整備に係る行政機関への要望であった。

　なお、「身体・知的」「身体・精神」「身体・知的・精神」は回答数が一桁であった。

・回答数（項目数・団体数）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 身体 | 知的 | 精神 | 身・知 | 身・精 | 知・精 | 身・知・精 | 合計 |
| ソフト面 | 80(28) | 25(12) | 46(12) | 6(3) | 2(1) | 12(8) | 5(4) | 177(68) |
| ハード面 | 17(12) | ― | 2(2) | 2(1) | 1(1) | ― | ― | 22(16) |
| 両面 | 4(4) | 1(1) | 1(1) | ― | 1(1) | ― | ― | 7(7) |
| 合計 | 101(44) | 26(13) | 49(15) | 8(4) | 4(3) | 12(8) | 5(4) | 206 |

※（）は回答団体数

身体

【ハード面】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 障害の内訳 | 視覚障害 | 肢体不自由 | 言語障害 |
| 7 | 7 | 3 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目の内訳 | 生活環境 | 差別解消 | 生活支援 | 安全・安心 |
| 14 | 4 | 1 | 1 |

・主な回答

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　歩道について、第3回障害者施策会議で、委員から車道側に斜めになっていて歩きづらいとのご指摘がありましたが、手動の車椅子では、健常者の想像以上につらく、坂の勾配も少なく、傾斜もフラットになっているのがマストなため歩道の長距離移動は不可能だと思っています。道路は全て市道ではないので、全ての道路で適用するのは難しいですが、杖をついて歩くような歩行困難者や、電動車椅子の方々に不自由がないような傾斜にすべき。 | 下肢機能障害（手動車椅子） | 公募委員 |
| 　1人でトイレに入った場合に洋式の場合に流すボタンが様々な位置にあるので探すのが大変なので、なるべく位置をそろえてほしいと思います。 | 視覚障害 | ブラインドダンスサークル・シン |
| 　非常時の避難場所を確保してほしい。（障害の種別や程度によってベッドや障害者トイレや医療等の特別な配慮がいるので一律に学校の体育館では無理なのではないでしょうか） | 右編片麻痺、言語機能の障害 | 失語症、構音障害者による絵画サークル「パレット」 |

　肢体不自由の方からは歩道の幅や凹凸、トイレに関する回答、要望が多く見られた。視覚障害の方からはトイレのボタン位置や信号機のことについての回答が見られた。

【ソフト面】

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 障害の内訳 | 肢体不自由 | 聴覚障害 | 視覚障害 | じん臓 | 言語 | 難病 | ぼうこう | 直腸 |
| 26 | 19 | 16 | 6 | 4 | 3 | 1 | 1 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目の内訳 | 差別解消 | 生活環境 | 生活支援 | 全般 | 雇用 | 安全・安心 | 保健・医療 | 教育 |
| 53 | 14 | 11 | 9 | 3 | 2 | 2 | 1 |

・主な回答

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　自治会の防災訓練の際には、地域で生活する障害者（聴覚障害に限らず様々な障害をもつ方）にも参加してもらい、実際にどんなサポートが必要になるのか地域ごとに確認しておくことが大事だと思います。要支援者名簿を活用した避難システムづくりが急務だと考えます。 | 聴覚障害 | 船橋市手話サークルさざんか |
| 　町内会の事業で草刈り、掃除などがあるが、思うように行えないため、参加することに気が引ける。 | 下肢機能障害 | 船橋市身体障害者福祉会 |
| 　食べ物や品物の位置などを知らせる時に、指示語（これ、あれ、そっち、あそこ等）を使うのではなくクロックポジション（３時の方向）など位置がはっきり分かる説明の仕方をしていただくと非常に助かります。 | 視覚障害 | ワークアイ・船橋 |
| 　見た目に分かりにくい障害なので誤解を受けやすいです。聞こえないと分かった時に面倒がられたり嫌な顔をされたりして傷つき、社会参加に消極的になってしまう人もいます。身振りや筆談などちょっとしたサポートがあると助かります。 | 聴覚障害 | 船橋市手話サークルさざんか |
| 　容積の狭いエレベーター（4、5人乗り程度）で健常者の方と乗り合わせた時、ほとんどの方が、開くボタンを押して先に降りるよう気を使っていただくのでお礼を言って先に降りるのですが、実は、狭いエレベーター内に人がいると車椅子を転回できず、後ろ向きに降りなければならず、かえって不便なのでやめてほしい。介助していただけるなら先に外に出て、開くボタンを押してほしい。 | 下肢機能障害（手動車椅子） | 公募委員 |

　肢体不自由の方からは、エレベーターでの健常者からのサポート方法や障害があることで町内会の活動への参加をためらうとの意見があった。また、聴覚障害の方からも嫌な経験をすることで社会参加に消極的になってしまうとの回答があった。

【両面】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 障害の内訳 | 肢体不自由 | じん臓 |
| 3 | 1 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目の内訳 | 差別解消 | 生活環境 | 安全・安心 | 生活支援 |
| 3 | 1 | 1 | 1 |

主な回答

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　踏切を渡る時には、車椅子が線路に挟まることがないか心配。危険な場面があれば車椅子を押すなど手助けしてほしい。 | 上肢機能障害、下肢機能障害（片麻痺） | 社会福祉法人千葉県福祉援護会障害者支援施設誠光園 |
| 　歩行または車椅子での移動で歩道が狭い、傾斜がありバランスを取りにくいことなどで困っている。歩道の整備や道を譲るなどの協力をしてほしい。 | 上肢機能障害、下肢機能障害 | 千葉県立船橋特別支援学校 |
| 　グループホームの拡充。その際、地域住民からの「反対運動」がおきることに心を痛めています。国の障害者差別解消法、また千葉県の条例の周知啓蒙、特に「何が差別にあたるのか」具体的な例を挙げて（反対運動が差別であると思ってもいない人も多い）人々の意識を変えていけたら。 | 下肢機能障害 | ＮＰＯ法人まんぼう |

　肢体不自由の方から、歩道や踏切の通行に際して、助けてほしいことについての具体的な回答があった。また、グループホーム拡充に関する反対運動についての回答もあった。

知的

【ソフト面】

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目の内訳 | 差別解消 | 教育 | 雇用 | 生活支援 | 全般 | 生活環境 | 安全・安心 |
| 14 | 5 | 5 | 2 | 1 | 1 | 1 |

主な回答

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　震災や風災害の後、電車が止まってしまい、いつ動くか分からずパニックになった子供と携帯で話をして落ち着かせていたのですが、周りに頼れる人がいなくて、駅員さんに代わり対応をお願いしようとしたが、いつ動くか分かりませんとしか言ってくれず、支援の手助けをお願いすることができなかった。 | ― | 特定非営利活動法人　ロンの家福祉会 |
| 　通院時、待合室で待てないので、事前に病院に連絡し待合室で待つ時間を短縮したところ、先に待っていた患者さんに順序が違うと注意された。（待合室に順番が異なることもあると掲示してほしい） | ― | のまる |
| 　障害者本人は感情のコントロールが難しく、突然近くの人に奇声を発したり、手をかけたりすることがある。もちろん、その人はビックリして遠ざかりますが、こんな場合でもできたら障害特性に鑑み、理解をお願いしたい。（非常に難しいことですが） | 中度 | 船橋市手をつなぐ育成会 |
| 　外出先でパニックを起こしたときに「親がいるのに…」と言われたことがある。温かく見守ってほしい。 | 自閉症 | どんぐりの会 |
| 　路上で、本人が独り言をつぶやいたり、手をひらひらすることがあります。社会的には不自然な行動ですが、本人にとっては自分の不安を和らげたり気持ちを整理するためにしているので、奇異に感じても指摘したり、とがめたりしないでほしいです。できるだけそっとしていてほしいです。 | 自閉症 | 船橋市障害福祉団体連絡協議会 |
| 　社会的に不適切な行動をとっていて注意したいときは、できる限り短い文で肯定文で伝えてほしいです。「おい！」「コラ」「ダメ」はNGワード、電車の中で歩き回らないでほしい場合は「ここに立っていてください」と伝えてほしいです。 | 発達障害 | 船橋市障害福祉団体連絡協議会 |

　障害特性による様々な言動に対して、周囲の理解が進んでいないとの回答が多くあった。「温かく見守ってほしい」「そっとしていてほしい」といった回答も見られた。

【両面】

|  |  |
| --- | --- |
| 項目の内訳 | 差別解消 |
| 1 |

主な回答

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　人の多い所や奇声も出るため、病院の待合室で待てません。電話での呼び出しや、個室を使わせてほしい。 | 自閉症 | ハンディがあってもだいじょうぶだよ！ネットワーク |

精神

【ハード面】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目の内訳 | 保健・医療 | 差別解消 |
| 1 | 1 |

・主な回答

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　市役所の「こんなサービスがあります」という案内をもっと分かりやすいものにしてほしい。 | 統合失調症 | 医療法人社団健仁会ひまわり苑 |
| 　僕は統合失調症で酸素ボンベをつけて呼吸することになり、外出する時、酸素ボンベと持ち運ばず、いつでもどこでも酸素が吸えて、街中でも吸える場所があればいいなと思います。ドイツでは街中で酸素ボンベを持ち込むことをせずに酸素を提供してくださるところがある。そうなれば、酸素を持って運ばずに済むなと思います。 | 統合失調症、肺血栓塞栓症 | 特定非営利活動法人みなと会 |

【ソフト面】

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目の内訳 | 差別解消 | 雇用 | 全般 | 保健・医療 | 教育 | 生活支援 |
| 22 | 10 | 7 | 7 | 7 | 4 |

・主な回答

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　障害への偏見が少しずつ少なくなってきたと思いますが、まだあるところもあります。障害者へ接する温かさが必要だと思います。 | ― | 特定非営利活動法人船橋こころの福祉協会船橋市地域活動支援センター |
| 　障害のことを伝えずに、ようやく少しお仕事（アルバイト）ができるようになったが、自分は正しいと思って話をしていた時、冷たい視線を感じたことがあった。　一方的に責められることもあり、軽度の障害者の理解を求めることの難しさを感じている。 | ― | 特定非営利活動法人ロンの家福祉会 |
| 　自分でも自分のことが理解できなくて悩んでいるくらいだから、他人に理解してほしいとか思わない。 | 統合失調感情障害 | 医療法人社団健仁会ひまわり苑 |
| 　外見では分かりづらいが、事故や病気の後遺症により、新しいことを記憶するのに時間がかかったり、物事の手順を覚えられなかったり、同時に複数のことを頼まれると混乱してしまったりする等の症状があることを理解してほしい。　仕事に復帰しても周囲の理解が得られず、継続するのが難しいことがある。 | 高次脳機能障害 | 社会福祉法人千葉県福祉援護会障害者支援施設誠光園 |
| 　ともすると、障害をもっていると理解されづらいこともあり、単純ミスを何回も続けることで、「しっかり聞けない人」「注意の散漫な人」などと評価されやすい。周りが？と気づいたら、根気強く「伝え続けて」ほしい。 | 発達障害 | 淑徳大学 |
| 　我が娘は、人とのコミュニケーションが上手に取れなかったり、拍手が苦手だったりと、傍から見るとなぜそれが本人にとって難しいのか分かりづらい特性が多いです。　社会に望むのは、１人１人が（できれば幼い頃から）様々な人と関わって、いろいろな人がいて当たり前なんだという意識を持つことができる環境作りです。　何か特異な行動をとっている人がいたとしても、そこには様々な理由や特性があるのかもしれないと考えられる経験値と寛容さが、お互いを生きやすくすると思います。 | 自閉症スペクトラム障害 | 公募委員 |
| 　健常児は自閉症児と関わることで自閉症児者を学ぶが、親の理解がなかなか進まない。　保護者会等で学ぶ機会があれば良いように思う。 | 発達（自閉症） | 船橋市自閉症協会 |
| 　服薬のため、会話の時ろれつが回らないがなぜか早口になる。相手が聞き取りにくくなってしまうが理解してほしい。 | 統合失調症 | 特定非営利活動法人みなと会 |

【両面】

|  |  |
| --- | --- |
| 項目の内訳 | 生活支援 |
| 1 |

・主な回答

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　自分のペースに合わせてゆっくりできる場所がない。作業とかは自分には合わない。話をしたり、お茶を飲んだりする場所がほしい。 | ― | 特定非営利活動法人ロンの家福祉会 |

問2　市民の障害への理解が深まっていると感じることや船橋が障害のある人にとって住みやすいまちになったと感じることはありますか？ある場合はどんな時に感じるか記入してください。

　総回答数112のうち、ソフト面に関することが全体の79％（回答数89）、ハード面に関することが18％（回答数20）だった。

　また、市の施策に関する回答は30あり、回答は下記のとおり、多岐にわたるが、ヘルプマークに関する回答が3つ、医療費の助成に関する回答が2つあった。

　なお、「住みやすいまちになったと感じることはない」といった旨の回答も3つあった。

・主な回答

【ソフト面】

・地域で開催されるお祭りでは、車椅子専用の観覧席が設置されているなど配慮を感じる。また、地域住民の方々から利用者に声を掛けていただくなど、温かさに触れる場面を多く感じる。

・ヘルプマークをつけてから、ヘルプマークのことを分かった人が増えた。しかし、障害の区別が分からない人がいる。（NPO法人千葉県中途失聴者・難聴者協会東葛南事務所　船橋友の会）

・船橋市だけしか知らないが、船橋市の障害者に対する福祉に取り組んでいる姿勢は大いに評価したい。（船橋二和病院ソラマメの会）

【ハード面】

・道路や駅舎などが徐々に整備されてきて、車椅子などでの移動が少しずつ楽になってきている。（特定非営利活動法人船橋障害者自立生活センター）

・障害者トイレの数が多くなったこと（多機能トイレ）。すごく機能的で使いやすいが「どなたでもどうぞ」という感じで使用中のところが多い。空いているときは息子と一緒に使えてありがたいと思う。（どんぐりの会）

　

問3　団体等が独自に行っている障害への理解啓発に関する取り組みはありますか？

ある場合は取り組みの概要を記入してください。

　各団体が様々な取組を行っているが、全体の24％にあたる団体が「障害のある人が話す機会を設けている」「障害のある人本人によるイベント参加」といった取り組みを行っていた。

【障害のある人が話す機会を設けている】（2団体）

・地域活動支援センターひなたぼっこのコミュニティカフェ事業は、障害のある利用者自身が接客を行います。これによって地域の方々への自然な理解啓発になっています。また、千葉県とNPOとの協働事業「ノーマライゼーション学校支援事業」で、障害のある子や発達に凸凹のある子の個別相談を受け、本人が困っている状況の解決に取り組んでいます。この事業では、発達障害や知的障害への理解啓発をテーマに講師を呼んで、年に4回の研修と1回のフォーラムを開催しています。それぞれ80人から100人近い申し込みがあり、一般県民・保護者・教職員・学童指導員など子どもに関わる多様な立場の方々に学ぶ機会を提供しています。また、利用者の創作活動のバンド演奏や絵画制作を市民に聞いたり見たりしてもらう機会をつくっています。（特定非営利活動法人ちばＭＤエコネット）

・福祉関連学校の授業に職員・利用者が講師役として参加。（社会福祉法人千葉県福祉援護会障害者支援施設誠光園）

【障害のある人本人によるイベント参加】（11団体）

・手話講習会等、依頼がありました時に感謝の気持ちでお受けいたし、地域の皆さん、教育関係の皆さん、子どもたちなどに「手話って何？聞こえないって何だろう？」というテーマで興味を持っていただき、指導させていただいております。また、船橋市には手話サークルが3団体あり、行事・イベントなどで交流を図ったり、船橋市の市民まつりのような場でバザーを開き、聞こえない私たちを見てほしいと思い、活動を続けております。また、パンフレットの配布もあります。（船橋市聴覚障害者協会）

・太鼓や獅子舞のチームを結成して、地域の老人介護施設や幼稚園などで、演奏披露を定期的に行っている。（紙好き工房空と海）

・作品展をし、見に来てくれた方々と作品制作についてや相手の方の感想をいただくなどの交流を通して言語障害への理解を深めていただくようにしている。（失語症、構音障害者による絵画サークル「パレット」）

・学校の道徳の時間等に、生徒たちとの交流会があり、障害者を理解してもらえる場があった。（ふなばしオストメイト倶楽部）

・ドラムサークルでは、障害のない人も一緒に活動するので自閉症のことを理解してもらう活動となっている。（船橋市自閉症協会）

・市聴覚障害者協会や他サークルと協力して市民まつりに参加したり、パンフレットを作成したりして、啓発に努めている。（船橋手話サークル「手の会」）

問4　市や団体等で既に行っている障害への理解啓発に関する取り組みへのご意見を記入してください。

　総回答数90のうち、「（参考資料）船橋市が実施している・把握している啓発事業」に関連があると分類できた回答は44あり、下表のとおり、「障害者週間記念事業の開催」「ヘルプマーク・ヘルプカードの普及活動」「障害者就労施設等の販売機会の確保」「総合防災訓練の実施」に関する回答が多かった。

　また、「障害者週間記念事業がららぽーとで開催するようになり、一般の来場者が増えた。スタンプラリーで作品展に足を運ぶ仕掛けも作っていただき、出展する側の立場としてはうれしく感じており、障害への理解啓発においても効果的であると思う」（千葉県福祉援護会）、「各障害者団体の連絡協議会等の設置で各団体間の理解が進んでいるが、一般市民や団体未加入の方の理解を進める取り組みをお願いしたい」（船橋リハビリ友の会）といった回答があり、一般市民への理解啓発に取り組んでいくべきだといった旨の回答が見られた。

　なお、（参考資料）に該当する項目がないとした回答が44あり、主なものは以下のとおりである。

・特別支援学校にて、施設紹介等を行っていますが、特別支援学校PTAと定期的な意見交換の場がもっとあっていいのではないでしょうか。（のまる）

・広告媒体（看板等）やACジャパンのCMのような「無意識に目に入ってしまう」ような施策が有効な気がします。（公募委員）

・啓発の取り組みとして講演会などが多いのではないでしょうか？座学ではなかなか理解が難しいと思います。当事者と接してこそ啓発活動になるのでは？（地域活動支援センターアーモ）

問5　障害のある人自身や団体等ができる障害への理解啓発に関する取り組みにはどのようなものがあると思いますか？

【①】障害のある人自身ができること

　全体で８６の回答があったが、上のグラフのとおり、回答が多かったものとしては「イベントへの参加」「周囲に望むことを伝える」「障害者本人が話す機会を設ける」の順となった。

　問3「団体等が独自に行っている障害への理解啓発に関する取り組み」への回答でイベントの参加促進に取り組んでいる団体は全体の約25％であり、取り組みは足りないと言える。

　しかし、「障害者本人が話をする機会を設ける」については、本設問で3番目に回答が多かったものの、実際に取り組んでいると問3で回答した団体は2団体だった。

問5　障害のある人自身や団体等ができる障害への理解啓発に関する取り組みにはどのようなものがあると思いますか？

【②】団体や事業所等ができること

　回答が多岐にわたるが、回答が多かったのは「イベントへの参加」「情報発信」「交流の場の提供」だった。

　なお、「その他」として分類したが本グラフに掲載していないものが42ある。

全体のまとめ

～障害や障害のある人への理解を推進するには～

■本人や支援者の積極的な関与が必要

　今回のアンケートは、障害者の皆さんや支援者の方等の生の声を知ることができるもので、障害福祉課としても新たな気付きが多くありました。

　障害のある人の現状やニーズを正しく理解してもらうためには、当事者自ら情報発信することが重要であると考えます。

　アンケート問５「②団体や事業所等ができること」においても、「イベントへの参加」「情報発信」「交流の場の提供」などが上位を占めています。

■実際の取り組みは、まだ少ない状況

　すでに市内各団体において、理解啓発に関する様々な取り組みを行っていただいていますが、問３の回答では、「障害のある人が話す機会を設けている」「障害のある人本人によるイベント参加」といった取り組みを行っている団体は全体の24％でした。さらに「障害のある人本人の話す機会を設けている」のは44団体のうち、2団体のみでした。

　理解を進めるためにイベント参加等が必要なことであると考えていても、実現には至っていない現状が明らかになりました。

■団体が行う理解啓発活動を市がバックアップ

　理解啓発について、それぞれの団体が単独で取り組んでも、その効果が限定的になってしまう可能性があります。

　そこで、各団体等の理解啓発推進に関する取り組みを市が積極的に支援します。また、このことを「第4次船橋市障害者施策に関する計画」に記載したいと考えています。

　これにより、団体等と船橋市のそれぞれの強みを生かしながら、同計画の基本理念である「障害の有無にかかわらず、自分らしく、地域で共に暮らせる社会の実現」に向けて、市民協働として取り組むことができるのではないかと考えます。

　次ページに取り組み（例）を記載しています。委員の皆様のご意見もいただき、今後検討していきたいと考えております。

【取り組み（例）】

1. 団体補助の枠組み拡充（「理解啓発に関係する活動」を補助対象に追加）
2. 福祉団体の任意の集まりや組織にも補助（福祉団体同士の連携強化）
3. 理解啓発についての取り組みを進める会議体の設置（市が事務局として参加）

※理解啓発推進の取り組みに当たっては、効果を最大限に引き出すため、以下の事項を含めて検討する必要があります。

①対象は誰なのか（小中学生？町会？企業？子育て世代の親？）

②どのようにすれば、その人の理解が進むのか

③取り組みの結果として、どの程度の理解レベルになるのか

④効果を確認する方法はあるのか

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

●理解啓発動画のご紹介

①理解啓発動画「夢に向かって輝け！」

・YouTubeや市役所ロビー等で放映しています。

・広報ふなばし（令和2年12月1日号）に記事を掲載しました。



こちらのQRコードから、市ホームページの動画紹介ページをご覧になれます。

②ヘルプマーク周知動画

・JR船橋駅とJR船橋駅南口再開発ビル「フェイス」をつなぐ歩道橋に設置されているデジタルサイネージで動画を放映しています。